

第5章 平成30年度取組結果と今後の方針

平成30年度の下水道技術開発会議では、下水道技術ビジョンのフォローアップの一環として、下水道事業における技術ニーズ及び新技術導入上の課題の分析、ロードマップ重点課題の選定及びロードマップの進捗確認、技術開発・導入促進方策の検討等を行った。(1)に平成30年度の主な取組結果、(2)に今後の主な検討方針を示す。

(1) 平成30年度の主な取組結果

下水道事業の技術ニーズ及び新技術導入上の課題等に関する調査により、中核市規模の地方公共団体の概況を把握した。その結果、将来的な技術的課題として、「管路の維持管理」、「管路更生」、「雨水対策」、「地震対策」が多く挙げられた。また、中核市規模の地方公共団体では、新技術の導入検討は3割程度の地方公共団体でしか行われていなかった。より規模の小さい地方公共団体では、新技術の導入がより消極的であると考えられる。今後も、技術ニーズの把握を進めるとともに、新技術導入上の課題の解決方法を検討していく必要がある。

ロードマップ進捗確認に向け、技術開発の状況を主に文献に基づいて情報収集、整理した。その結果、技術開発分野によりばらつきがあったが一定の技術開発の進捗が確認された。特に、技術開発分野⑩「低炭素型下水道システム」に関しては文献数、下水道事業に関連するガイドライン、マニュアル等が多く、技術の開発段階も比較的高い傾向があった。一方、ICT・ロボット関連の技術分野等、今回の情報収集では十分な情報が得られていないと考えられる分野があったことから、より広範な情報収集方法を検討する必要があると考えられる。

(2) 今後の主な取組方針

平成30年度の結果を踏まえ、表1-1に示した検討を今後も進める。それらのうち主な取組を以下に示す。

○下水道事業の技術ニーズ及び新技術導入上の課題等に関する調査

技術的課題・ニーズに関しては、平成30年度のアンケート及びヒアリング調査により把握を行った、中核市規模の地方公共団体における結果の重点課題への反映を検討するとともに、より小規模な地方公共団体を主な対象とした情報収集を実施する。

新技術導入上の課題については、エネルギー分科会を主として、新技術の導入促進を念頭に新たな技術開発スキームの検討を行うとともに、新技術に関する情報共有のあり方については、プロジェクトGAMの活用を含め検討する。

○下水道技術ビジョン・ロードマップに係る技術開発状況の把握

ロードマップに係る技術開発状況の把握については、本レポートにより結果を周知するとともに、今後も継続して文献調査等、情報収集を行う。また、本年度の調査では情報が十分得られていない可能性がある分野について、より広範な情報収集方法について検討するとともに、技術開発項目として分類できなかった文献についても整理し、必要に応じて、ロードマップの技術開発項目の追加の可能性を検討する。